

令和5年9月29日

所沢市長選挙候補者

杉田まどか様

藤本正人様

小野塚勝俊様

「小手指ヶ原公園」の事業化推進と「生物多様性ところざわ戦略」の強化拡充  
に関する公開質問状

■小手指ヶ原公園を進める地域づくりネットワーク

|                 |             |        |
|-----------------|-------------|--------|
| (公財) トトロのふるさと基金 | 理事長         | 安藤 聡彦  |
| 狭山丘陵の環境を守る連絡会議  | 代表委員        | 永井 信   |
| おおたかの森トラスト      | 代表          | 足立 圭子  |
| 北中ネイチャークラブ      | 代表          | 吉成 裕   |
| 埼玉県生態系保護協会所沢支部  | 支部長<br>(代行) | 井上 孝夫  |
| 文化財保存全国協議会      | 関東委員会代表     | 勅使河原 彰 |

私たちは、所沢市の全国に誇るべき自然環境や生物多様性と調和した『みどりのまちづくり』の実現を目指して、1980年代より様々な環境保護活動に取り組んできた市民団体です。これまでに市内の自然を代表する「狭山丘陵」をはじめ、「所沢カルチャーパーク」、「くぬぎ山自然再生事業地」、「北中緑の景観地」、「砂川上流地区」、「三富新田」等々の主要拠点について、平塚・武藤・中井・斎藤・当麻・藤本の40年に及ぶ歴代所沢市長との話し合いを通じた取り組みにより、子どもたちや将来の市民に優れた「緑地」を手渡す成果が得られる状況となっています。

一方、地球規模では昨年12月に「生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）」が開催され、本年3月には環境省により「生物多様性国家戦略 2023～2030」の策定が公表されました。国際的に「気候変動抑止」と共に「生物多様性保全」は、最優先すべき環境政策課題ですが「生物多様性保全」に関しては、これまでの取り組みが極めて不十分であったことから、2030年までに生物多様性を顕著に改善させる『ネイチャーポジティブ（自然再興）』が、新たな世界目標・全国目標として決定されるに至っています。

所沢市においては、2021年段階で「生物多様性ところざわ戦略」が策定され、そのモデルプロジェクトに「生物生息空間の保全・再生・創出プロジェクト」や「武蔵野の生きもの復活プロジェクト」が挙げられ、単なる現状維持を図るのみならず生物多様性の改善を目標とした、まさに『ネイチャーポジティブ』を先取りする事業が位置づけられています。

当該モデルプロジェクトでは「小手指ヶ原公園」計画地が事業候補地として明記されていることから、私たちは上記の背景を踏まえ、所沢のこれからの『みどりのまちづくり』を担うシンボル事業として「小手指ヶ原公園」の事業化推進が最もふさわしいと考え、現地調査も含め何度も協議を重ねて来ました。

そして、その成果を「小手指ヶ原公園を進める地域づくりネットワーク」として取りまとめ、本年1月24日に『小手指ヶ原公園の令和5年度事業化推進に関する要望書』として、所沢市長に提出しました（別添資料参照）。

これらのことから、この度の所沢市長選挙に際し「小手指ヶ原公園」の事業化推進と、ネイチャーポジティブを加味した「生物多様性ところざわ戦略」の強化拡充策について、各候補者の基本的なお考えを伺いたく、公開質問状を提出いたします。

お忙しいなか大変恐縮ですが、10月10日までに文書で下記質問にご回答いただけますよう、よろしくご配慮の程お願いいたします。なお、回答文書に関しましては私たちの団体のみならず、マスコミを通じ広く市民へも公表させていただく所存です。

## 記

### 1. 「小手指ヶ原公園基本計画」の令和6年度事業における改訂について

「小手指ヶ原公園（17.4ha）」は、これまでの私たちと市との話し合いのなかで、1995年の時点で、当時の所沢市長が北野地区・白旗塚周辺の良い自然環境や歴史文化遺産を、将来に引き継ぐために保全整備することを表明し、2001年に都市計画決定しています。

その後、都市公園としての事業化着工に至らぬままに、雑木林等の自然破壊が進んだこともあり、前記の通り2021年の「生物多様性ところざわ戦略」において、先行して具体化するモデルプロジェクトに位置づけられた経緯があります。

私たちは、『小手指ヶ原公園の令和5年度事業化推進に関する要望書』を2023年1月24日に所沢市長に提出しましたが、令和5年度においては一部の用地取得は進んだものの、私たちが要望した生物多様性や歴史文化を中核とする「公園基本計画」の策定は、具体化されていません。

担当セクションとなる建設部（公園課）への問い合せでは、都市計画決定前の1999年にすでに「小手指ヶ原公園基本計画」は策定済みであり、令和6（2024）年度においても基本計画を見直す考えはない、との見解が示されています。

私たちは「小手指ヶ原公園」は、その規模や環境特性・地域独自性から、単なるいち都市公園整備ではなく、『所沢らしい緑のまちづくり』の集大成とも言える公園緑地事業と考えています。それだけに、20年以上前の基本計画をそのまま踏襲するのではなく生物多様性をはじめとした近年の社会情勢に見合ったコンセプトの導入や、広範な市民参加を前提とした「公園基本計画」を改めて策定することは不可欠、との強い思いから市長要望を行いました。

以上のことから、「生物多様性ところざわ戦略」のモデルプロジェクトである「小手指ヶ原公園」の早期具体化を図るために、まず最初に令和6年度事業として公園基本計画の見直しが必要と考えますが、市長候補者としての見解をお示しください。

## 2. 市民参加型ネイチャーポジティブ推進による「生物多様性ところざわ戦略」の

### 強化拡充について

所沢市においては、世界標準の環境問題である「気候変動」と「生物多様性」への取組みに関し、県内はもとより全国的にも先行する自治体であるとの評価が高まっています。私たちとしても、ますます深刻化しているこれらの課題の改善を図るために、『カーボンニュートラル』と『ネイチャーポジティブ』で求められている目標に対して、市民団体の立場から所沢市の各担当課とこれまで以上に連携と協働を深めていきたいと考えています。

特に、『ネイチャーポジティブ』は私たちが取り組む中心的な活動テーマですが、所沢市の自然環境の多くは雑木林や湿地等の人の手が加わることによって維持・改善される、二次的自然としての特徴を有しています。そのため、前記の「小手指ヶ原公園」をはじめ、市内の主要な公園や緑地で生物多様性の改善を図るためには、市民団体・教育機関・企業等による広範な市民参加による保全管理の活動を新たに進める仕組みづくりや体制整備が、これからの重要課題と言えます。

2030年を計画目標とする『ネイチャーポジティブ』を所沢市で達成し、さらなる環境先進自治体とするためには、現在の「生物多様性ところざわ戦略」に『ネイチャーポジティブ』の新規概念を加えて、上記した市民参加型保全管理計画を主要緑地ごとに作成し、着実に生物多様性の改善を図っていくことが求められています。

具体的には、「小手指ヶ原公園」の基本計画検討の場等を通じて、多様な保全管理主体が参加し話し合える機会を設けてください。

そして、市民参加型ネイチャーポジティブ推進による「生物多様性ところざわ戦略」を強化拡充（バージョンアップ）することについてのお考えを、お示しください。

3. これからの所沢市の『みどりのまちづくり』や『生物多様性対策』を進めるうえでの考  
えや思いがありましたら、何でもご自由に記してください。

※回答文書は、10月10日までに下記までお寄せください。

【連絡先】小手指ヶ原公園を進める地域づくりネットワーク

〒359-8502

埼玉県所沢市小手指ヶ原1-1-1 小手指ヶ原公園 地域づくりネットワーク

TEL 0429-850111

FAX 0429-850112

E-MAIL [shozu@shozu-net.or.jp](mailto:shozu@shozu-net.or.jp)